

日本生涯スポーツ学会
Japanese Society of Lifelong Sports

News Letter

2019 JUNE

【目次】

- 会長挨拶
- 日本生涯スポーツ学会第20回大会の報告
- 日本生涯スポーツ学会第20回大会【学生訪問記】
- 日本生涯スポーツ学会第21回大会のご案内
- 事務局からのお願いとお知らせ
- 学会員からの情報提供
- 関連学会等情報
- 新入会員

会長挨拶

『日本生涯スポーツ学会第 21 回大会を迎えて』



日本生涯スポーツ学会 会長 山口 泰雄

平成 11(1999)年に設立された日本生涯スポーツ学会は、令和元年を迎えた今年、21 年目に入りました。導入期、成長期を経て、成人期に入った本学会は、ゴールデン・スポーツイヤーズの 1 年目において、さらなる飛躍が期待されます。

昨年、沖縄県名護市の名桜大学において開催された第 20 回大会は、記憶に残る学会大会になりました。大会テーマは、『生涯スポーツ振興とスポーツツーリズムの未来』、学会大会参加者は 168 名、基調講演とシンポジウム出席者は 236 名に上り、過去の学会誌においても第 20 回記念大会として、ランドマークになりました。また、オープニングの伝統舞踊と百年古家・大家での懇親会は、優しい沖縄文化の風に包まれた素晴らしいひとときでした。平野貴也実行委員長をはじめ、実行委員そしてお手伝い頂いた学生の皆さんに厚く御礼申し上げます。

第 21 回大会は、8 月の北海道で開催されます。テーマは、『東京オリ・パラ 2020 競技大会の生涯スポーツへのレガシー——する・みる・ささえるスポーツへの北からのメッセージ』です。ラグビーワールドカップ 2019、東京オリ・パラ 2020 は、われわれにとって、“みる・ささえるスポーツ”といえます。“みるスポーツ”から、生涯スポーツの本来あるべき姿である“するスポーツ”へレガシー構築をするためには、どのような戦略を考えるべきか、また、どのような KPI や評価指標によって、評価し、モニタリングするべきなのか、大いなる議論を期待しています。

また、楽しみなのは第 18 回大会から始まった「若手研究発表賞」と第 20 回大会からスタートした「ポスター発表賞(学部生部門・大学院生部門)」です。これまでの発表賞会場においては、独特の緊張感に包まれ、真剣な発表と質疑が繰り広げられました。第 21 回大会においても、若手研究発表賞とポスター発表賞へ、多くのエントリーを期待しています。日本生涯スポーツ学会のセールスポイントのひとつは、多様性を持っている教員とそのゼミ生・院生である学生とのコミュニケーションが活発なことです。学部生がひとつのテーマを深め、学会発表に至るまでは教員の熱心なサポートと、院生や上級生のアドバイスにより可能になります。その結果、教員と学生のコミュニケーションが深まり、質の高い卒論や修論につながっていきます。

さらに今秋には、世界のスポーツ・フォー・オール団体が加盟する TAFISA(The Association For International Sport for All)の第 26 回ワールドコンGRESS 2019 東京が開催されます。ポスター発表では Student Paper Award も用意されています。ぜひ第 21 回大会の成果を、世界の場で披露していただきたいと考えています。

8 月末の北海道の地で、皆さんに再会し、意欲的なプレゼンを聞く、議論できることを楽しみにしています。

See you soon in Hokkaido !

日本生涯スポーツ学会第20回大会の報告

2018年11月23日(金)～24日(土)の2日間にわたって開催された第20回学会大会は、多くの皆さんに沖縄県の名護市、名桜大学までお越しいただき、成功裏に終えることができました。実行委員会を代表いたしまして、御礼申し上げます。

日本生涯スポーツ学会第20回大会実行委員会

委員長 平野 貴也

- 期 日:2018年11月23(金・祝)～24日(土)
- 会 場:名桜大学SAKURAUM、多目的ホール
- 主 催:日本生涯スポーツ学会
- 運 営:日本生涯スポーツ学会第20回大会実行委員会
- 後 援:沖縄県、沖縄県体育協会、沖縄県レクリエーション協会、公立大学法人名桜大学 (順不同)

- 特別協力:本学会大会は下記の助成を受けています。

沖縄県(コンベンション開催支援事業、コンベンション貸切バス等運行支援事業、
コンベンション開催歓迎事業)

日本スポーツ体育健康科学学術連合(公開シンポジウム・講演会に対する補助金)

- 大会実行委員会

委員長 平野 貴也

委員 東恩納玲代、神谷 義人、慶田花英太、島袋 桂、辺士名齊朝

- 協賛企業・団体(19団体)

公立大学法人名桜大学、順天堂大学スポーツ健康科学部、セノー株式会社、株式会社協栄、
株式会社国際印刷、一般財団法人沖縄美ら島財団、医療法人タピック宮里病院、
丸正印刷株式会社、公益財団法人笹川スポーツ財団、公益財団法人健康・体力づくり事業財団、
株式会社前田産業、株式会社JTB沖縄、ミズノ株式会社、株式会社名護パイン園、
竹井機器工業株式会社、やんばる物産株式会社、スポーツデータバンク沖縄、
沖縄ツーリスト株式会社、大塚製薬株式会社那覇出張所

- 大会テーマ 『生涯スポーツ振興とスポーツツーリズムの未来』

- 大会日程

11月23日(金・祝)		11月24日(土)	
8:00	受付	9:00	口頭発表Ⅱ
9:00	開会式		(一般口頭発表)
9:45	口頭発表Ⅰ(一般口頭発表)		(若手研究発表賞)
11:45	昼食	11:00	ワークショップ
13:00	基調講演	12:00	総会
14:45	シンポジウム	13:00	閉会式
16:30	ポスター発表	14:30	エクスカージョン
18:30	懇親会		

- 大会参加者 168名(会員:118名、非会員50名)、基調講演とシンポジウムの出席者数 236名
- 発表演題数 口頭発表:一般口頭発表 32演題、若手研究発表 8演題、ポスター発表:34演題

■ 基調講演

演題 Research, Lifelong Sport, and Travel: Exploring Pathways to Sustainability
 (研究, 生涯スポーツ, 旅行: 持続可能な開発への道を探る)
 演者 Thomas Hinch 氏(アルバータ大学、和歌山大学)
 指定討論者・通訳 伊藤 央二 氏(和歌山大学)

■ シンポジウム

テーマ 生涯スポーツとツーリズムの方向性
 演者 金村 禎和 氏(沖縄県文科観光スポーツ部 課長)
 荒川 雅志 氏(琉球大学 国際地域創造学部 教授)
 森 兵次 氏(ツール・ド・おきなわ実行委員会 委員長)
 山口 泰雄 氏(神戸大学 名誉教授)
 コーディネーター 平野 貴也 氏(名城大学 人間健康学部 教授)

■ 大会企画

ワークショップ「スポーツリズムトレーニング」
 講師: 河野 吉喜 氏(一般財団法人スポーツリズムトレーニング協会 認定インストラクター)
 エクスカーション「帆かけサバニ体験」、「スタンドアップパドルボード(SUP)ヨガ・SUP クルージング」

■ 表彰[エントリー数 若手研究発表賞(8 題)、ポスター発表賞(学部生部門 21 題、大学院生部門 7 題)]

○ 若手研究発表賞

山口志郎(流通科学大学)

「市民マラソンにおける消費経験クオリティとファンエンゲージメントの関連性
 —ソーシャルネットワーク・クオリティを加えた新たな概念モデルの検証」

○ ポスター発表賞(大学院生部門)

【最優秀賞】

宇野真里子(東海大学大学院) 位高駿夫(株式会社ハイクラス) 野坂俊弥(東海大学体育学部)

「講義主体のインセンティブ付き健康運動教室でも体力や睡眠は改善する」

【優秀賞】

中村祐太郎(仙台大学大学院) 仲野隆士(仙台大学)

「ソフトバレーボールチームの類型化とプレイヤーの満足度の関係性-宮城県内のチームに着目して-」

○ ホスター発表賞(学部生部門)

【最優秀賞】

永野杏奈(和歌山大学観光学部) 伊藤央二(和歌山大学)

「弓道選手の心理的スキルに関する研究」

【優秀賞】

森 亮貴、森脇瑠香、原田一平、宮下 凌、涌井拓磨(和歌山大学観光学部) 伊藤央二(和歌山大学)

「ヨガ実施者の健康感に関する研究」

片岡立樹(流通科学大学人間社会学部) 山口志郎(流通科学大学)

「アスレジャー市場におけるライフスタイルに関する研究-10, 20 代の大学生に着目して-」

坂本直斗(和歌山大学観光学部) 伊藤央二(和歌山大学)

「大学生の運動部活動の異競技選択要因と非継続要因に関する研究」

■記録写真



挨拶:名桜大学学長 山里勝己氏, 学会会長 山口泰雄氏



基調講演: Thomas Hinch氏、伊藤央二氏



シンポジウム:(左から)金村禎和氏、荒川雅志氏、森兵次氏、山口泰雄氏



口頭発表風景



若手研究発表賞：山口志郎氏



ポスター発表賞(大学院生部門)
最優秀賞：宇野真里子氏



ポスター発表賞（学部生部門）
最優秀賞：永野杏奈氏



ポスター発表賞（学部生部門）優秀賞：
（左から）坂本直斗氏・森亮貴氏・片岡立樹氏



大会の運営を支えてくれた学生ボランティア：名桜大学学生・大学院生の皆さん



懇親会会場：アグーと沖縄料理の百年古家『大家（うふや）』

■ 日本生涯スポーツ学会第20回大会【学生訪問記】

日本生涯スポーツ学会第20回大会の発表を終えて

増田 翔太

(同志社大学 スポーツ健康科学部3年:当時)



日本生涯スポーツ学会第20回大会では、私たち同志社大学二宮研究室から大学院生の口頭発表が2演題、学部生のポスター発表が6演題の発表を行いました。ポスター発表の6名は、全員が学部3年生で初めての学会発表となりましたが、二宮浩彰先生の懇切丁寧なご指導を賜りまして、全員が沖縄の地で発表するまでに至りました。この場をお借りして御礼申し上げます。

私の発表テーマは、テキストマイニングを用いた奈良マラソン2017における「ランナーの声」の分析でした。奈良マラソンのランナーを対象に実施した自由記述形式の回答から得られたテキストデータを用いてテキストマイニングを行い、性別・年代別にマラソン大会に対するランナーの声を分析することによって、マーケティングに役立てようとするものです。学会でしか経験することの出来ない特有の緊張感がありましたが、多くの学会参加者の方々が温かく見守って下さったおかげで、聞き手の顔を見ながら感情を込めて話すことを意識して発表することが出来ました。また、発表後に広島経済大学の岡安功先生から質問やコメントとお褒めの言葉を頂き、大きな自信にも繋がりました。普段お目にかかる機会が少ない学外の先生方との交流を経て、新たな知見を得ることが出来ました。この経験は学生生活に留まらず、その後の社会生活にも生きる、貴重なものになりました。また、この学会に参加することで学んだ研究の基礎と、多くの先生方の研究発表を聴講することで得た知識を大学でのゼミ活動に応用することで、より活発なゼミになるのではないかと考えております。

今回、学会に参加して、大学内での学習だけでは決して得ることの出来ない貴重な経験をさせて頂きました。これも、学部生が参加しやすいように様々な配慮をして下さった学会運営に依るものだと思います。末筆ではございますが、学会大会の実行委員会、および学会事務局の先生方に感謝の意を表します。

第20回生涯スポーツ学会での発表を終えて

妹尾 祐子・新村 美帆子

(龍谷大学 社会学部4年:当時)



2018年11月23日から24日にかけて沖縄県名護市の名桜大学にて行われた、第20回日本生涯スポーツ学会に参加し、発表を行いました。記念すべき第20回大会ということで開会式では沖縄県の民族舞踊、懇親会ではエイサーが披露されるなど盛大に行われました。懇親会の食事も琉球料理など様々な部分で沖縄県らしさを感じました。

学会の中では学部生部門でポスター発表を行いました。発表準備の中で最も難しいと感じたことは発表を制限時間の3分以内に収めることでした。発表内容を研究し始めた経緯、結果、結論それぞれ伝えたいと思うことが多く、3分以内に収まるように何度も練習を行いました。発表で伝えようと思っていた部分を時間の関係でいくつか削ったこともあり、準備の段階では自分の研究が聞き手に伝わるのか不安もありました。しかし発表当日は多くの方が

発表を聞いてくださり感想を言ってくださったことで不安が薄れました。

ポスター発表では龍谷大学にはない学部にも所属する多くの学部生、院生の参加者がいたので、自分では研究することのない内容のポスターを見ることができ、とても勉強になりました。

Thomas Hinch 氏による基調講演では沖縄県のツーリズムの持続可能な発展について学びました。沖縄県は観光地として人気のある場所であるが、青年期、成人早期、成人中期の観光客が多く、幼児期や老年期の観光客の数も少ないため、その層を増やす新たな戦略を立てなければならないということを知りました。沖縄県に限らず他の人気のある観光地も少しずつ変化をしていかなければならないのではないかと感じました。

ワークショップではスポーツリズムトレーニングを行い、リズムに合わせて楽しみながら体を動かすことができました。インストラクターの河野吉喜氏の動きを真似し、様々な音楽に合わせて体を動かし、徐々に難しくなる動きに苦戦しながらも楽しむことができました。音楽に合わせて楽しく体を動かし温められるため、部活動の中でも活かせるのではないかと感じました。

懇親会では多くの社会人の方や他大学の学生の方と話し、残りの学生生活や社会人になる上で参考になる貴重なお話をすることができました。

昨年度の第 19 回生涯スポーツ学会は龍谷大学で行われたため、私たち自身は運営スタッフとして関わっていました。運営スタッフとして学会の中で活動したときは発表をただ聞くことしかできませんでした。しかし今年は自分も発表する立場になったため、昨年は感じなかった発表側の準備の大変さと達成感、運営側の有難さを知ることができました。

記念すべき第 20 回大会に参加でき、学生生活最後の年により良い経験ができました。



日本生涯スポーツ学会第21回大会のご案内

<大会概要>

期 日:2019年8月29日(木)~8月30日(金)

会 場:北翔大学(北海道江別市)、北翔大学札幌円山キャンパス(札幌市)

28・29日:北翔大学札幌円山キャンパス(札幌市)、30日:北翔大学(江別市)

主 催:日本生涯スポーツ学会

主 管:日本生涯スポーツ学会第21回大会実行委員会

<大会テーマ>

東京オリ・パラ2020競技大会の生涯スポーツへのレガシー

—する・みる・ささえるスポーツへの北からのメッセージ—

<大会日程>

(大会日程)

会場 28・29日:北翔大学札幌円山キャンパス(札幌市)、30日:北翔大学(江別市)

	8月28日(水)	8月29日(木)	8月30日(金)
8:00		受付	受付
9:00		開会式	口頭発表 I
10:00		キーノート	
11:00		シンポジウム	
12:00		総会	
13:00		昼食	よさこい演舞
14:00		閉会式	口頭発表 II
15:00		若手研究者発表	
16:00	理事会	ポスター発表	
17:00			
18:00			
19:00		懇親会	
21:00			

※予定は変更される場合があります。

<参加・発表申込> 研究発表抄録提出期限:2019年6月28日(金)

<若手研究発表賞の授与>

会則第3条に定める目的を促進するために「若手研究発表賞」を授与します。若手個人会員の皆様、また研究室所属の大学院生にお勧めいただきふるってエントリーください。

<ポスター発表賞の授与>

学部学生および大学院生によるポスター発表を促進するためにポスター発表賞を授与します。こちらもふるってエントリーください。

<大会に関するお問い合わせ>

日本生涯スポーツ学会第 21 回大会事務局 担当者:横山茜理

〒069-8511 江別市文京台 23 番地 北翔大学 生涯スポーツ学部 横山研究室

Email: hokusho.lifelong.sport2019@gmail.com

FAX: 011-387-3927



※ 学会大会に関する新たな情報は、随時学会 HP (<https://jsls.jp> :学会大会情報)もしくは、フェイスブック (<https://www.facebook.com/lifelong.sports/>) にアップいたします。こちらをご覧ください。

■【事務局からのお知らせとお願い】

- **役員選挙** 今年度総会にて現役員任期満了のため役員選挙が実施されます。選挙人となる個人会員の皆様には書類が送付されます。期限までに投票いただけますようお願いいたします。
- **年会費納入の依頼**を 4 月に送付させていただきました。未納の場合は下記の振込先に納入をお願いいたします。
個人会員 5,000 円、学生会員 2,000 円
【振込先】郵便振替 日本生涯スポーツ学会 01750-9-80562
ゆうちょ銀行 店番 179
当座 一七九店(イチナナキュウ店) 0080562
※ 年会費請求書、領収書が必要な場合は、事務局までご連絡ください。
- **連絡先等(住所、所属、メールアドレス等)の変更**は、事務局までお知らせください。
事務局: TEL&FAX:082-871-1641 Email:jp.lifelong.sport@gmail.com <https://jsls.jp>

■学会員からの情報提供

□国際会議レポート：仲野隆士（仙台大学）

『世界レジャースポーツ科学&産業 国際フォーラム廈門(アモイ)2018:発表報告』

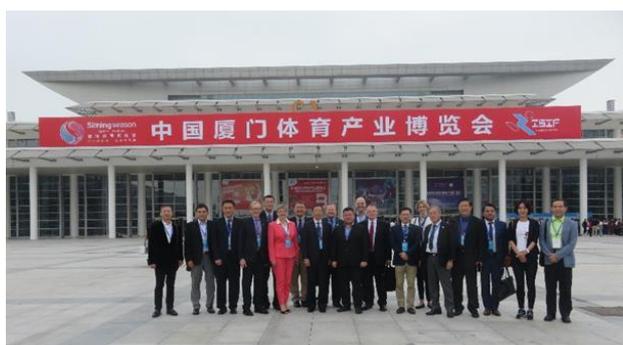
2018年11月15～18日に中国の廈門(アモイ)で開催された国際フォーラムに、発表者の一人として参加した報告をしたい。

昨年、縁があり世界レジャースポーツ協会(WLSA):本部アメリカ・カリフォルニア(2016年設立)の副会長の一人として関わりを持つことになり、第1回のマカオでの国際フォーラムに引き続き2回目の発表となった。なお、どちらも協会に全面的に招待されるという有難い配慮があった。なお、どちらも日本人の参加者は筆者のみであった。

今回は17日の午前中に実施された5名によるメインプレゼンテーションの3番目の発表で、英語による発表を行った。タイトルは、次の通りである。

The Transition and Present Situation of Leisure Sports and Sport Tourism in Japan

協会からの招待状などは全て英語で記された添付ファイルで届き、返信は中国の事務局に本学の中国人スタッフに依頼し中国語で送信するという形式であった。その事務局の対応で2年連続困惑した。2017年のマカオでは理事会等に参加するだけにかまわないという事で参加したところ、現地に着いてプログラムを拝見したら2日目のフォーラムに3.The development of leisure sports in Japan, by Takashi Nakano と記されており、急遽日本から持参していたパソコンの過去のデータや写真をかき集め、何とか英語でPPTを作成し発表したという事があった。今回は、初めから英語による20分程度の発表依頼があったので英語のPPTを作成して現地に入った。それで、いざ発表となって初めて分かった事は、昨年と違い今回は同時通訳が入っていたという事であった。その情報は一切確認できていなかったため、必要以上にゆっくり話をしたり、念のため予備で入れていた関連写真の説明を加えたりして、何とか与えられた時間を使い切ったという事であった。予期せぬことが再び起こり、今回もメンタル面で鍛えられたという思いで帰国したのであった。



■関連学会等情報

『第26回 TAFISA ワールドコンgres 2019 東京』

会期:2019年11月14日(水)～16日(土)

会場:都市センターホテル(東京都千代田区平河町2-4-1)

テーマ:Sport for All through Tradition and Innovation

公式サイト:<https://tafisa-japan2019.jp/jp/>

ポスター締め切り8月7日。TAFISA Student Paper Award あり。

国内参加者向けに1日券、学生券あり。



『2020 横浜スポーツ学術会議(The 2020 Yokohama Sport Conference)』

会期:2020年9月8日(火)～12日(土)

会場:パシフィコ横浜 ノース(神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1)

テーマ:多様な人々が共に生きる世界をめざして:体育・健康・スポーツ科学の貢献

公式サイト:http://yokohama2020.jp/jp/index_jp.html

■新入会員紹介 2018年4月～2019年4月25日現在理事会承認分

<個人会員>

朴 永晃(大阪経済法科大学)	渡邊浩美((公財)スペシャルオリンピックス日本)	
菅原一昭(仙台医療福祉専門学校)	与那覇秀勲(流通科学大学)	大崎哲也(北海道新聞社)
舞 寿之(桃山学院教育大学)	中村祐太郎(仙台大学大学院)	徐 嘉楓(同志社大学大学院)
蓮沼哲哉(福島大学)	胡 威(同志社大学大学院)	高上馬希重(北海道医療大学)
西岡ゆかり(大阪国際大学)	河野吉喜(医療法人大場整形外科)	谷所 慶(関西大学)
有福大貴(医療法人社団福寿会介護老人保健施設しらさぎ)	小木曾 湧(早稲田大学大学院)	
児嶋恵吾(和歌山大学)	石井壮一((公財)健康・体力づくり事業財団)	
野瀬由佳(安田女子大学)	高橋享兵(大阪体育大学)	鳥山 稔(大阪体育大学)
渡 正(順天堂大学)	齋藤孝史(順天堂大学)	落合宏則(順天堂大学)
位高駿夫(株式会社ハイクラス)	胡 戎(和歌山大学)	伊藤敏孝(横浜市経済局)
中井 聖(大阪電気通信大学)	三浦敬太(神戸大学大学院)	出戸寿明(神戸大学大学院)

<学生会員>

山本康平(同志社大学)	柴田美和(同志社大学)	増田翔太(同志社大学)	大野月見(同志社大学)
大吉ひかる(同志社大学)	新谷咲希(東海大学)	高瀬友貴(順天堂大学)	妹尾祐子(龍谷大学)
新村美帆子(龍谷大学)	宮下 凌(和歌山大学)	原田一平(和歌山大学)	森 亮貴(和歌山大学)
森脇瑠香(和歌山大学)	涌井拓磨(和歌山大学)	高雄優壱(流通科学大学)	宮本和佳(流通科学大学)
廣津晴香(流通科学大学)	井上美波(和歌山大学)	中井隆斗(流通科学大学)	

(入会順、敬称略)

《 編集 日本生涯スポーツ学会 広報委員会 》
 工藤保子、仲野隆士、高見 彰、岡安 功、師岡文男、柳川尚子

事務局 〒731-0192 広島市安佐南区祇園5-37-1 広島経済大学 松本研究室
 TEL&FAX: 082-871-1641 Email: jp.lifelong.sport@gmail.com <https://jsls.jp>